



®環境省

エコアクション21

認証番号 0013567

エコアクション 21 環境経営レポート

2022年度版

(運用期間:2022年8月~2023年7月)



汚水・汚泥処理・清掃

コバキュー

にお任せください!

発行:2023年10月30日

株式会社 コバキュー

〒905-2173 沖縄県名護市久志福地原 790-2

TEL (098) 55-3633

FAX (098) 55-3633

目 次

1. 組織の概要	1
2. エコアクション 21 の対象範囲	4
3. 環境経営方針	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営計画	7
6. 環境経営計画に基づき実施した環境への取組	9
7. 環境経営目標の実績	12
8. 環境経営計画の取組結果と評価	14
9. 次年度の取組	15
10. 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無	16
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	17

1. 組織の概要

(1) 事業社名及び代表者名

事業所名:株式会社 コバキユウ

代表者名:代表取締役 小橋川 順史

(2) 所在地

本社 :〒904-2202 沖縄県うるま市天願 61-1

TEL098-972-5001 FAX098-972-5020

処分場 :〒905-2173 沖縄県名護市久志福地原 790-2

TEL/FAX0980-55-3633

(3) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者:小橋川 凜

担当者 :小橋川 凜

TEL : 080-8374-9520

FAX0980-55-3633

E-mail:rin@kobakyu.co.jp

(4) 事業規模

設立:2012年8月1日(11期目)

年商 :36,000万円(第11期)

資本金:600万円

事業年度:8月～翌年7月

従業員:14名

(5) 事業内容

産業廃棄物収集・運搬業務

産業廃棄物処分(中間処理)

無機性汚泥の脱水、有機性汚泥の脱水、無機性汚泥の造粒固化、廃油の油水分離

URL: <http://www.kobakyu.co.jp>

(6) 許可番号及び登録証(内容)

① 産業廃棄物収集・運搬業許可証

許可番号 :第 04702193214 号

許可年月日:令和4年(2022年)1月5日

有効年月日:令和9年(2027年)1月4日

事業の範囲:

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物のふん尿、動物の死体
(これらのうち石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物を除く。積み替え保管を含まない。)

② 産業廃棄物処分業許可証

許可番号 : 第 04721193214 号

許可年月日: 令和 4 年(2022 年)1 月 26 日

有効年月日: 令和 9 年(2027 年)1 月 25 日

事業の範囲:

■ 中間処理(これらのうち、水銀含有ばいじん等及び特別管理産業廃棄物を除く)

(脱 水): 汚泥

(造粒固化): 汚泥(無機性のものに限る。)

(油水分離): 廃油

■ 事業の用に供するすべての施設

脱水施設1(遠心分離機(スラリーデカンタ JS-500D)、高圧フィルタープレス(KFP-1200×31))

処理能力: 汚泥(無機性) 100m³/日(8時間) 12.5m³/時間

脱水施設2(Z18-V-BS)

処理能力: 汚泥(有機性) 8m³/日(8時間) 1m³/時間

造粒固化施設(自走式土質改良機 MR126)

処理能力: 汚泥(無機性) 400m³/日(8時間) 50m³/時間

油水分離施設(遠心分離機(MJ-HC50ES-HN))

処理能力: 廃油 8.64m³/日(8時間) 1.08m³/時間

保管施設1(脱水施設2に係る保管施設)

設置場所: 沖縄県名護市字福地原 790-2

汚泥(有機性): 保管面積 10m³ 保管上限 20m³ 保管高さ 2m

保管施設2(油水分離施設に係る保管施設)

設置場所: 沖縄県名護市字福地原 790-2

廃 油: 保管面積 8m³ 保管上限 10m³ 保管高さ 1.25m

③ 産業廃棄物処理施設設置許可証

許可番号: 第 960113 号

許可年月日: 令和 2 年(2020年)6 月 18 日

処理能力: 100m³/日(8時間) 12,5m³/時間

産業廃棄物の種類: 汚泥(無機性)

処理後の条件:

1) 処理後の脱水液は、そのまま施設外に排出せず、排水処理施設で PH 調整、重金属類除去等の適正な措置を行った上で中水等に利用すること。

2) 環境保全上の問題が生じた場合は、原因を究明し、誠意を持って対策を講じること。

④ 建設業の許可票

許可番号: 沖縄県知事許可(般-2)第 14232 号

許可年月日: 令和 3 年(2021 年)1 月 8 日

許可を受けた建設業:

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業、解体工事業

⑤ ゆいくる認定証 認定 12-31 号

認定資材の品目 : 再生資源含有土砂代替材

認定資材名 : かいりょうどー

認定年月日 : 新規 平成 30 年(2018 年)12 月 3 日
更新 令和 4 年(2022 年) 3 月 1 日

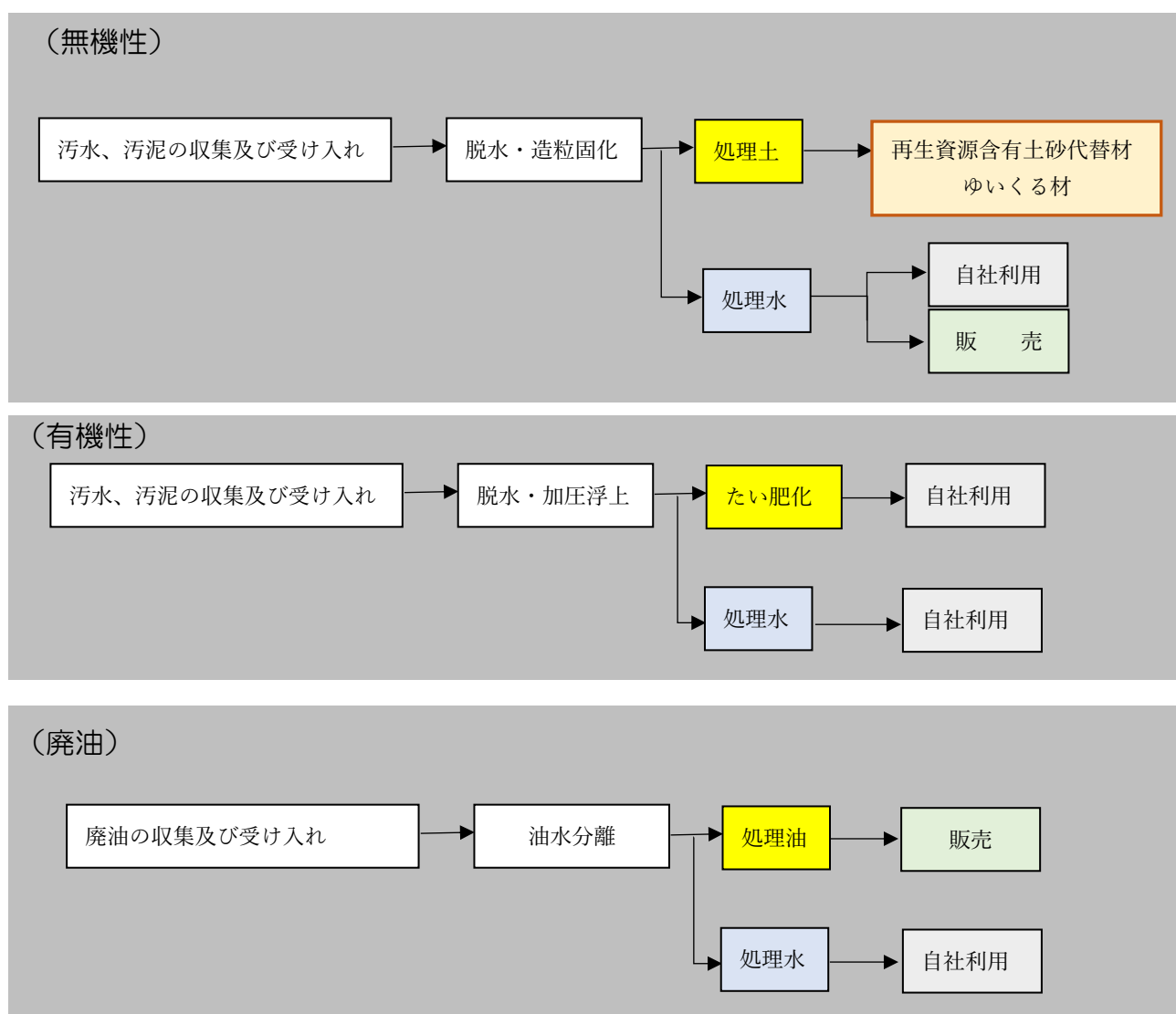
認定の有効期間 : 令和 7 年(2025 年)2 月 28 日

工場等の所在地及び名称 : 沖縄県名護市字久志福地原 790 番 2
株式会社コバキュー

認定の条件 : 沖縄県リサイクル資材評価認定制度実施要領に定めるとおり



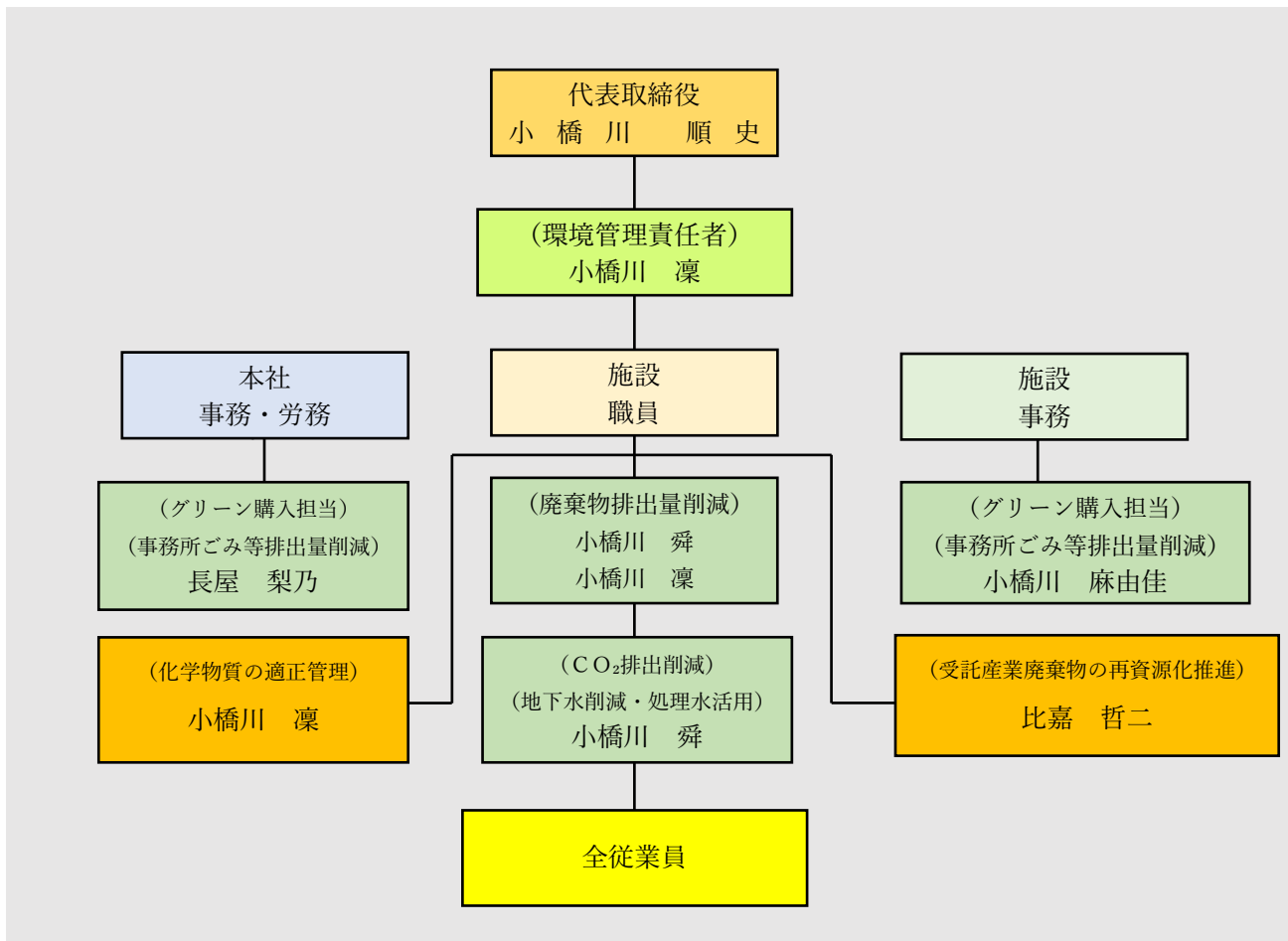
(7) 処理工程図



(8) 受託した産業廃棄物の収集・運搬及び処理処分量

区分	単位	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
収集・運搬	t	13,926.00	4,375.00	10,639.87	30,725.71
中間処理	t	13,926.00	4,375.00	10,639.87	30,725.71

(9) 組織図(実施体制)



担当	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針及び環境活動計画の決定及び改正 エコアクション 21 全体の取組及びその効果を評価し、見直しを実施し必要な指示を行う
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・運用・維持 環境活動レポート等の関係書類の確認、運用状況の把握、代表者への報告
廃棄物排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> 分別の徹底、リサイクル率向上の立案・実施・指導
CO ² 排出削減	<ul style="list-style-type: none"> 各車両及び処分施設における環境負荷の立案・実施・指導
地下水削減・処理水活用	<ul style="list-style-type: none"> 地下水及び処理水の節水、処理水の有効活用における立案・実施・指導
受託産業廃棄物の再資源化推進	<ul style="list-style-type: none"> 処理土(処理水)の土質(水質)の管理 処理土(処理水)の有効活用における立案・実施・指導
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> 使用薬品・化学物質の適正使用および管理
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> グリーン製品及びエコ製品の採用
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、環境への取組の重要性の理解

(10) 車両リスト

- ①バキューム車(12台) ④散水車(2台)
- ②箱型ダンプ(3台) ⑤キャブオーバー(1台)
- ③ダンプ(3台)



2. エコアクション 21 の対象範囲

- ・当社は全組織・全活動を対象に、環境省の環境経営システムであるエコアクション 21 の認証を 2022 年 5 月 6 日に取得しました。
- ・これにより、現在の事業活動を通じて、汚水及び汚泥の適正処理を行い、循環型社会の形成及び環境負荷の低減に向けて、全社を挙げて環境経営に取り組んで参ります。

(1) 認証・登録事業所

株式会社 コバキユウ

(2) 対象事業所

本社、処分場

(3) 対象事業活動

産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物中間処理



エコアクション21認証・登録証

3. 環境経営方針

環境理念

各工場や各工事現場から排出された汚水や汚泥を吸引・清掃・運搬し、自社の産業廃棄物処理施設にて適正処理を行い、循環型社会の形成及び環境負荷の低減に全従業員で取り組みます。

より良い環境を目指し、環境にやさしい社会に貢献する企業でありたいと思い、環境経営の継続的改善に取り組んでまいります。

行動指針

循環型社会の実現を図るため、次の行動指針を定めます。

1. 環境保全に関わる法令及び規則を遵守します。
2. 受託した産業廃棄物(汚泥)を再生資源化します。
3. 燃料・電気・水等の使用量をできる限り削減します。
4. 各車両のエコドライブを心掛けて、二酸化炭素排出量の抑制につなげます。
5. 廃棄物排出量の削減に努めます。
6. 化学物質の適正管理(削減は困難なため)に努めます。
7. グリーン購入を推進します。
8. 地域周辺の方々とのコミュニケーションを図り、環境美化に努めます。
9. 環境経営方針は全従業員に周知徹底します。
10. 環境経営レポートを作成し、要求に応じて配布・公表します。

2020年8月1日制定
2022年2月24日改定
株式会社 コバキュー
代表取締役 小橋川 順史

4. 環境経営目標

- ・環境経営目標は、現在の事業活動を踏まえて7項目10目標を設定し、2020年度から2024年度までの中長期計画として設定しました。
- ・削減目標は、基準年とした2019年度実績値に対して毎年1%ずつ削減し、2022年度は3%削減、2024年度までに5%削減を目指します。
- ・一般廃棄物排出量は、昨年度に排出量を計測し、2022年度から数値目標を設定しました。
- ・化学物質の適正管理につきましては、受託廃棄物の中間処理においてPRTR法対象化学物質を含む薬品を使用しないため、定性目標（適正使用量の順守・過剰投入の注意）を定めました。
- ・地下水使用量については、現在水量メーターが未設置のため定性目標（節水に努める）としましたが、今後はメータを設置して使用量を把握し、数値目標で管理していきます。

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標				
		2019年度 (2019年8月～ 2020年7月) 実績値	2020年度 (2020年8月～ 2021年7月)	2021年度 (2021年8月～ 2022年7月)	2022年度 (2022年8月～ 2023年7月)	2023年度 (2023年8月～ 2024年7月)	2024年度 (2024年8月～ 2025年7月)	
1.二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	230,304	228,000	225,720	223,464	221,229	219,017	
(1)電気使用量の削減	kWh	3,860	3,821	3,783	3,745	3,708	3,671	
(2)軽油使用量の削減	各車両	L	58,840	58,251	57,669	57,092	56,521	55,956
	発電機	L	29,312	29,018	28,728	28,441	28,157	27,875
2.一般廃棄物排出量の削減	kg	-	現状把握	72(実績値)	71.3(-1%)	70.6(-2%)	69.9(-3%)	
3.産業廃棄物排出量の削減	kg	720	713	706 (1,260)	699 (1,248)	629 (1,235)	685 (1,223)	
4.地下水使用量の削減	m ³	-	節水に努める	節水に努める	節水に努める	現状把握 (メーター設置)	2023年度 実績値から 数値目標を 設定する	
5.化学物質の適正管理	-	化学物質の適正管理に努める						
6.受託産業廃棄物の再資源化推進	% (再資源化率)	100	100	100	100	100	100	
7.グリーン購入の推進	-	-	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	

備考)・購入電力の排出係数は沖縄電力(株)2019年度調整後排出係数(0.744 kg-CO₂/kwh)を用いた。

- ・()は基準年に対する削減率を示す。
- ・地下水については2023年度から水量メーターを設置して地下水使用の現状を把握する。
- ・一般廃棄物排出量は2021年度排出量(72 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。
- ・産業廃棄物排出量は2021年度排出量(1,260 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。

5. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組(活動項目)を設定しました。

環境経営目標	責任者	具体的な取組	スケジュール
1. 二酸化炭素排出量の削減	小橋川 舜 小橋川 凜	電気使用量の削減	通年
		使用しない箇所の照明の消灯、使用していない電子機器の電源OFFを徹底します。	
		軽油使用量の削減	通年
		①収集運搬ルートを事前に計画し無駄な走行をしません。	
		②急な発進、加速、停止を抑制します。	
		③発電機のメンテナンス・維持管理を徹底します。	
④車両に無駄なものを載せない・忘れ物に注意します。			
⑤不要なアイドリングは避け、エコドライブを意識します。			
2. 一般廃棄物排出量の削減	長屋 梨乃 小橋川 麻由佳	① 弁当の空き容器は自宅に持ち帰ります。	通年
		② アルミ缶、スチール缶の分別を徹底します。	通年
		③ ペットボトルの使用を極力へらし、個人の使用済みペットボトルに関しては持ち帰りをルールとして徹底します。	通年
3. 産業廃棄物排出量の削減	小橋川 舜	① 廃油、廃バッテリー、廃板金部品など分別を徹底します。	通年
		② 混合ゴミにならないように分別を徹底します。	通年
4. 地下水使用量の削減	小橋川 舜	従業員への節水を呼びかける。	通年
5. 化学物質の適正利用	小橋川 凜	SDSに基づき適正利用・適正管理に努めます	通年
6. 受託産業廃棄物の再資源化推進	比嘉 哲二	処理土・処理水の有効利用を推進します。	通年
7. グリーン購入の推進	長屋 梨乃 小橋川 麻由佳	グリーン購入対象商品を優先的に購入します。	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した環境への取組

- ・ 今日、SDGsや2050年カーボンニュートラル等、地球規模の課題解決に向けた取組の社会的要請が強まっており、これらは今後の事業活動を継続・発展させる上で事業者の重要な責務と考えております。
- ・ 当社は2022年5月にエコアクション21の認証を取得し、環境経営システムを構築して循環型社会づくりやカーボンニュートラル、SDGsにも取り組んでおります。
- ・ 今年度は、環境経営計画に基づき以下の取組をSDGs(17のゴール)と紐づけて実施しました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減



- ・ 使用しない箇所の照明の消灯、使用していない電子機器の電力OFFを徹底しています。
- ・ 照明器具は省エネ性能の高いLED照明に切り替えました。



昼休みの消灯



LED 照明(処分場)

(2) 軽油使用量の削減



- ・ 発電機のメンテナンス・維持管理を徹底しています。
- ・ 車両使用時はエコドライブを実施しています。



発電機メンテナンスの様子



エコドライブポスターの掲示

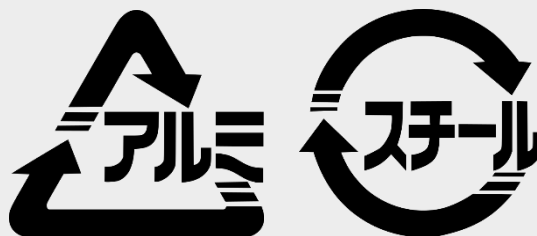
2. 一般廃棄物排出量の削減



- ・ 弁当の空き容器やペットボトルは持ち帰りをルールとしています。
- ・ アルミ缶、スチール缶の分別をしています。



アルミ・スチール缶他の分別



3. 産業廃棄物排出量の削減



- ・ 廃油、廃バッテリー、廃板金部品など分別を徹底しています。
- ・ 混合ゴミにならないように分別を徹底しています。

4. 地下水使用量の削減



- ・ 啓発シール等を使って日常的に節水活動を行いました。



節水ポスターの設置



高圧洗浄車

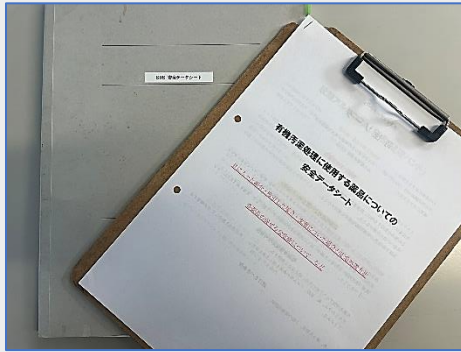
強力吸引車



5. 化学物質の適正管理



・SDS と頻繁に使用する薬品の使用上の注意点・緊急時の応急処置方法などをまとめたデータシートを用いて、化学物質の適正管理・利用に努めています。



SDS による薬品管理用

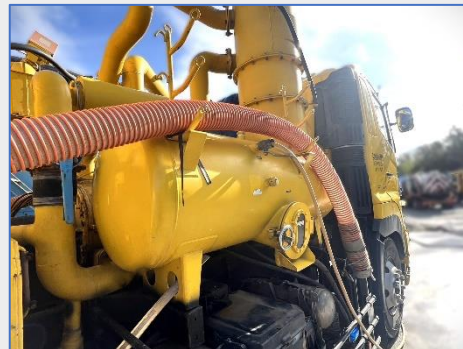
6. 受託産業廃棄物の再資源化推進



・受託産業廃棄物の再資源率の最大化に努めました。
 ・処理水は処分場敷地内の粉塵対策の散水、吸引清掃車の架装機械冷却水など、自社内での有効活用を実施しています。処理水・処理土ともに有効的・積極的利用の推進を継続していきます。



敷地内での散水



吸引車冷却水タンク給水(処理水)の様子

4. グリーン購入の推進



・事務用品はグリーン購入商品をカタログ・仕様書で確認して優先的に購入し、記録しています。



グリーン購入対象のコピー用紙



同事務品の購入



7. 環境経営目標の実績

- 2022年度は、設定した環境経営目標7項目10目標のうち、一般廃棄物、地下水使用量、受託産業廃棄物の再資源化推進、化学物質の適正管理、グリーン購入の5項目5目標で目標を達成できました。

環境経営目標	単位	基準年	2022年度 (2022年8月～2023年7月)		目標達成率	目標達成評価	受託産業廃棄物比 [※] を考慮した目標達成率	受託産業廃棄物比を考慮した目標達成評価	
		2019年度 (2019年8月～2020年7月) 実績値	目標値 (-3%)	実績値					
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	230,304	223,464	336,224	66%	×	147%	◎	
(1)電気使用量の削減	kWh	3,783	3,745	9,127	41%	×	89%	△	
(2)軽油使用量の削減	各車両	L	58,840	57,902	90,268	64%	×	140%	◎
	発電機	L	29,312	28,441	36,876	77%	×	170%	◎
2. 一般廃棄物排出量の削減	kg	(72)	71.3(-1%)	66	108%	○	—	—	
3. 産業廃棄物排出量の削減	kg	(1260)	1,248	4,540	28%	×	—	—	
4. 地下水使用量の削減	m ³	—	節水に努める	節水に努めた	—	○	—	—	
5. 化学物質の適正管理	—	—	適正管理に努める	適正管理に努めた	—	○	—	—	
6. 受託産業廃棄物の再資源化推進	%	100%	100%	100%	100%	○	—	—	
7. グリーン購入の推進	—	—	グリーン購入対象商品を優先的に購入する	グリーン購入対象商品を優先的に購入した	—	○	—	—	

備考)・達成状況の判定区分 ◎:120%≤目標達成率 ○:100%≤目標達成率<120% △:80%≤目標達成率<100%
×:目標達成率<80% —:判定不可

- 目標達成率の計算 削減目標の場合: $\text{目標} \div \text{実績} \times 100$ 、増加目標の場合: $\text{実績} \div \text{目標} \times 100$
- 一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の基準年実績値は2021年度の排出量を基準とした。

※ 受託産業廃棄物比を考慮した目標値は以下の式を用いて算出した。

$$\left\{ \frac{\text{2022年度受託産業廃棄物量}}{30,725\text{t}} \div \frac{\text{2019年度受託産業廃棄物量}}{13,926\text{t}} \times \text{2019年度実績値} \right\} \times 0.97 \text{ (削減目標: -3\%)}$$

1. 二酸化炭素排出量の削減

- 最大の環境負荷である二酸化炭素排出量は、目標達成率66%で目標を下回りました。これは、現場への収集運搬回数と取扱数量の大幅増加、夜間業務に伴う発電機の稼働時間増加、事務所の営業時間の延長により、軽油使用量と電気使用量が増加したためです。受託産業廃棄物の取扱数量は基準年度(2019)の約2.2倍でした。受託産業廃棄物取扱数量の比を考慮した目標値を用いて評価した場合、二酸化炭素排出量の削減は147%、電気使用量の削減は89%となりました。

(1). 電気使用量の削減

- ・電気使用量の目標達成率は41 %と目標を下回りました。受託産業廃棄物の取扱数量の増加に伴う営業時間の延長に加えて、今年度に新設した作業員休憩所の照明およびエアコンが電気使用量増加の要因です。今後も使用時以外の照明、家電、電子機器の電源OFFをはじめとした節電活動を続けていきます。

(2). 軽油使用量の削減

- ・軽油使用量の目標達成率は、車両使用量64 %、発電機使用量77 %でした。これは、今年度の二酸化炭素排出量増加と同様の理由で目標値を大きく下回る結果となりました。軽油使用量においても基準年度(2019年度)と今年度の受託産業廃棄物取扱数量比を考慮した目標値を用いて評価した結果、車両使用量の削減は140%、発電機使用量の削減は170%となりました。

車両使用量に関しては、今年度に作業員休憩所を新設に伴い休憩時の車両のエンジン停止を義務付けました。これにより無駄なアイドリングの軽減が見込めます。また、収集運搬車の増車も使用量増加に影響しました。導入された新規収集運搬車は尿素SCRシステム搭載車が含まれております。排ガスが環境へ与える影響などにも考慮したエコドライブを引き続き行い、設備更新の面でも環境に配慮した車両・設備の優先的な選択を行う予定です。

2. 一般廃棄物の削減

- ・一般廃棄物は、主にアルミ缶が占めており、適切な分別、売却を行いました。今後もマテリアルリサイクルを意識した分別、廃棄、売却を推進していきます。

3. 産業廃棄物の削減

- ・産業廃棄物は、設備の一部更新により通常営業時と比較して大幅に増加した結果となりました。今後も適切な分別とリサイクルを意識していきます。

4. 地下水使用量の削減

- ・地下水使用量は、節水の意識も定着してきました。2023年度は、水道メーターを取り付けて数値化し、使用した水量の記録と節水実績の見える化に取り組んでいきます。

5. 化学物質の適正管理

- ・使用する薬品の SDS データシートに加え自社用の簡易データシートを自作し、安全使用と適正量使用の啓発を行いました。今後とも適正管理・使用を推進していきます。

6. 受託産業廃棄物の再資源化推進

- ・再生土の利用方法として、従来の埋戻土としての利用だけでなく、農地などでの利用をはじめとした様々な利用方法・価値を見出し、積極的使用の推進を行っていきます。
- ・処理水に関しては、処分場敷地内の粉塵対策の散水をはじめとして、吸引清掃車の架装機械冷却水や洗車に使用するなどの多岐にわたって自社内での有効活用を実施しています。今後とも節水意識と共に有効利用の推進に努めます。

7. グリーン購入の推進

- ・グリーン購入については、優先的に対象商品を選択・購入し、目標を達成できました。引き続きグリーン購入を進めて参ります。

8. 環境経営計画の取組結果と評価

- ・2022年度の環境への取組結果は以下のとおりであり、設定したほとんどの項目で取組が実施でき、良好な結果となっています。
- ・今後もこの取組を継続・発展させ、目標未達となった二酸化炭素排出量の電気使用量及び、軽油使用量の削減の取組については、重点項目と位置づけて、その取組を周知・徹底して、目標達成を目指していきます。

環境経営目標	目標達成状況	具体的な取組	取組実施状況	評価 (次年度の取組)
1.二酸化炭素排出量の削減	× 電気 × 車両 × 軽油 × 発電 × 軽油 ×	① 収集運搬ルートを事前に計画し無駄な走行をしません。	◎	・二酸化炭素排出量を削減する取組は概ね実施できていましたが、受託産業廃棄物の取扱数量の増加に伴い、電気・軽油使用量の大幅増加となりました。 ・今後は目標未達となった電気使用量の軽油使用量の削減取組を中心に、取組の周知・徹底を図ります。 ・休憩室の新設に伴い、休憩時の車両のエンジン停止を義務付けました。これからも不要なアイドリングの削減を行います。
		③ 急な発進、加速、停止を抑制します。	○	
		④ 発電機のメンテナンス・維持管理を徹底します。	◎	
		⑤ 車両に無駄なものを載せない・忘れ物に注意する	○	
		⑥ 不要なアイドリングは避け、エコドライブを意識します。	○	
		⑦ 環境に配慮した設備更新を意識します。	◎	
		⑧ 使用しない箇所の照明の消灯、使用していない電子機器の電源OFFを徹底します	◎	
		2.一般廃棄物排出量の削減	○	
② アルミ缶、スチール缶の分別を徹底します。	◎			
③ 個人の使用済ペットボトルの持ち帰りを徹底します。	◎			
3.産業廃棄物排出量の削減	×	① 廃油、廃バッテリー、廃板金部品など分別を徹底します。	◎	・設備更新に伴い排出量が一時大幅に増加しました。 ・次年度にかけて排出量の削減活動の目標達成に向けて活動していきます。
		② 混合ゴミにならないように分別を徹底します。	◎	
4.地下水使用量の削減	○	従業員への節水を呼びかける。	○	・節水意識も定着している。
5.化学物質の適正利用	○	SDSに基づき適正利用・適正管理に努めます	◎	・引き続き適正利用・管理に努める
6.受託産業廃棄物の再資源化推進	○	処理士・処理水の有効利用を推進する	◎	・引き続き処理士・処理水の有効利用を続ける
7.グリーン購入の推進	○	グリーン購入対象商品を優先的に購入します。	○	・引き続きグリーン商品を優先的に購入する。

備考) 目標達成状況判定区分 ◎ : 120% ≤ 目標達成率 ○ : 100% ≤ 目標達成率 < 120% △ : 80% ≤ 目標達成率 < 100%
 × : 目標達成率 < 80% - : 判定不可
 取組実施状況判定区分 ◎ : よく実施できている (定着) ○ : 実施できている △ : ほぼ実施できている
 × : 実施できていない - : 判定不可

9. 次年度の取組

・2022年度の環境経営目標運用成績を踏まえて、次年度(2023年度)計画は以下の通りとします。

(1)環境経営目標(2023年度)

・2022年度の目標達成状況は概ね良好な結果であったため、中長期目標の2023年度を適用します。
 なお、電気使用量については、従業員休憩室を新設した結果を考慮して、見直しを行いました。
 また、受託産業廃棄物の取扱数量を考慮した目標値についても今後検討していきます。

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標				
		2019年度 (2019年8月～ 2020年7月) 実績値	2020年度 (2020年8月～ 2021年7月)	2021年度 (2021年8月～ 2022年7月)	2022年度 (2022年8月～ 2023年7月)	2023年度 (2023年8月～ 2024年7月)	2024年度 (2024年8月～ 2025年7月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	230,304	228,000	225,720	223,464	221,229	219,017	
(1) 電気使用量の削減	kWh	9,127* (2022)	—	—	—	8,762	8,671	
(2) 軽油使用量の削減	各車両	L	58,840	58,251	57,669	57,092	56,521	55,956
	発電機	L	29,312	29,018	28,728	28,441	28,157	27,875
2. 一般廃棄物排出量の削減	kg	—	現状把握	72(実績値)	71.3(-1%)	70.6(-2%)	69.9(-3%)	
3. 産業廃棄物排出量の削減	kg	720	713	706 (1,260)	699 (1,248)	629 (1,235)	685 (1,223)	
4. 地下水使用量の削減	m ³	—	節水に努める	節水に努める	節水に努める	現状把握 (メーター設置)	2023年度 実績値から 数値目標を 設定する	
5. 化学物質の適正管理	—	化学物質の適正管理に努める						
6. 受託産業廃棄物の再資源化推進	% (再資源化率)	100	100	100	100	100	100	
7. グリーン購入の推進	—	—	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	グリーン商品を優先的に購入する。	

備考)・購入電力の排出係数は沖縄電力(株)2019年度調整後排出係数(0.744 kg-CO₂/kwh)を用いた。

- ・()は基準年に対する削減率を示す。
- ・地下水については2023年度から水量メーターを設置して地下水使用の現状を把握する。
- ・一般廃棄物排出量は2021年度排出量(72 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。
- ・産業廃棄物排出量は2021年度排出量(1,260 kg)を基準値とし、次年度から毎年1%の削減を目標値とした。
- *基準年度の電気使用量は2022年度実績値で示す。2023年度は2022年度実績値かた4%の削減を目標とした。

(2)環境経営計画(2023年度)

・基本的な取組に変更はないが、目標未達となった環境負荷の最も大きい二酸化炭素排出量(特に軽油排出量)の削減について重点項目として位置づけ、社員一同で徹底して取り組みに努めます。

10. 環境関連法規等の違反、 訴訟等の有無

- ・当社の事業活動に対して、適用される環境関連法規等は次のとおりです。
- ・2022年度事業活動において法令遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

	主な適用法規	遵守すべき要求事項	遵守状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物収集運搬業許可の届出	○
		産業廃棄物処理施設許可の届出	
		産業廃棄物処分許可の届出	
		マニフェストの保管・管理	
		マニフェスト発行状況の行政報告	
2	道路交通法	道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図る。	○
3	グリーン購入法	環境に配慮した製品を優先的に購入	○
4	フロン排出抑制法	簡易点検(実施頻度:3か月に1回以上)	○
5	消防法	消防訓練の実施、消防設備の点検	○
6	水質汚濁防止法	化学物質の適正管理	○
7	毒物及び劇物取締法	化学物質の適正な取扱い・管理・保管	○
8	浄化槽法	保守点検(4ヶ月に1回以上)・清掃・法令点検の実施	○
9	海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施工	漏出時の措置・対応訓練	○

備考)遵守状況判定区分 ○:遵守 ×:不遵守 -:該当なし

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

・2022年度運用期間終了後に、代表者による当該年度の取組状況の全体評価と次年度計画の見直しの必要性を検討しました。結果は以下のとおりです。

対象項目	評価	見直し必要性の検討
環境経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の環境経営方針に示した行動指針の運用開始から2年が経過した。運用において大きな障害はなく、これからも行動指針に沿った環境負荷低減活動を社員一同で推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の適正管理に関しては、購入数量の把握、適正使用量の調整などにより前年度と比べて行動指針の達成に近づいた。 ・地域環境美化活動については、地域自治体主催のイベントに参加し海岸の清掃活動を社員一同で行った。今後も地域との交流を兼ねた活動を重ねる予定である。
環境経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は例年の飛躍した仕事量と比べてもさらに仕事量が増加したため、エネルギー使用量、特に軽油使用量が大幅に増加した。取扱数量を考慮した場合の二酸化炭素排出量は特段に増加した値ではなかったため、今後とも環境経営方針に沿った活動を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受託産廃の取扱数量を考慮した環境経営目標値を再設定する必要性を感じた。実際に取り組み達成可能な目標値を設定することで会社全体のEA21へのさらなる意識向上を目指したい。
環境経営計画	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営目標を社内で周知したことで、社内ごみの減量化や節電意識の向上が見られ、リサイクルと分別といった面でも満足できる結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽油使用量の大幅増加が当面の課題である。低燃費車両・機材の導入による根本的対処と社員一同によるエコドライブの協力による環境経営目標達成を来期は目指したい。
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21の取組から2年が経過し、会社全体としても環境へ配慮する姿勢が浸透してきた。来期は環境経営目標をより達成できるよう全社員で具体的な対策を議論、実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> EA21の取組から2年が経過し、社員一同の取り組みへの理解も得られてきたことから、現在の実施体制を確実に継続していくことに加え、一歩ずつ発展していくことを目標とする。

2023年10月30日
株式会社 コバキュー
代表取締役 小橋川 順史